

⑤2024年度 外国語学研究科

PLAN(計画) ➡2024年4月までに
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
収容定員の充足を目指す募集戦略 (1) 大学院HPの充実(文京祭イベントや中間発表会のお知らせなど)を図る。 (2) 生涯学習センター連携講座のテーマ、実施時期、実施方法を再検討し、入学増に繋げる。 (3) 学外から招聘講師を招き、FDを兼ねた講演会の実施。学内外から聴衆が集まるようなテーマを設定する。 (4) 在学生対象の学内説明会/相談会について実施方法や時期を再検討する。 (5) 学外向けにオンライン進路相談会を実施する。
B's Vision 2029に基づく学修成果・教育成果向上の改善 (1) 副指導体制の見直しと強化(規定や内規の再検討) (2) 修士論文・課題研究の評価基準の明確化(ルーブリックの活用) (3) 優秀論文賞などの選考基準の明確化
海外研究者および大学院生との交流 (1) LUおよびLUJとの交流を実現させる(LUJでの修士論文調査、LUJでの語学関連授業の履修、コロキウム等での研究発表など)。
各センターとの連携 (1) 生涯学習センター:大学院への志願者増につながるようなテーマの選定や開催方法を再検討する。 (2) 教職センター:教職センターおよび外国語学部との協力関係を構築し、「外国語学研究科＝英語教員を目指す学生・現役の英語教員のための研究科」の実現を目指す。

DO(実施)
D:計画を実行しその効果を測定する。
収容定員の充足を目指す募集戦略 (1) 大学院HPのアップデートを行った。 (3) (4) 学内向けの進路相談会や学外向けにオンライン進路相談会の告知を行った。また大学院紹介ページの冒頭からオンライン相談会に申し込めるようにした。
B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善 (1) 副指導体制の見直しと強化、規定や内規の整理を行った。 (2) ルーブリック活用の徹底し、修士論文等の評価基準を明確にした。 (3) 優秀論文賞の選考基準の明確にした。
海外研究者および大学院生との交流 ・ミネソタの協定校との関係を新たに構築した。 ・モンゴルなどLU/LUJ以外の機関で修士論文リサーチを行った学生がいた。
各センターとの連携:教職センター ・8月に第1回英語教育研修会を本研究科主催、教職センターおよびBLECの共催で行った。 ・教職センターのご尽力を得て大学院生が専修免許を取得し、埼玉県教員採用試験に合格した。

CHECK(評価)
C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う
収容定員の充足を目指す募集戦略 内部特別選考入試を通じて学部からの志願者はあったものの、学外の志願者が皆無であった。学外に向けた広報活動の一環として、新井先生が学外向けの広報を兼ねた共著出版のイベントを学内で開催して下さった。
B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善 ルーブリックについては、生成AIや倫理審査など新たな視座を入れて一部アップデートする必要がある。
海外研究者および大学院生との交流 ・LUJでの語学関連授業の履修を希望するも、時間割が合わず受講が叶わなかった。 ・LUJでのリサーチ活動についても円安の影響が大きく、実現が難しくなったと思われる。
各センターとの連携:教職センター 英語教育研修会については、初回ということもあって参加者数は少なかった。継続させることで少しずつ参加者を増やしていく必要がある。

ACITON(次への改善)
A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
収容定員の充足を目指す募集戦略 (1) 2025年度は広報・募集戦略委員会での議論や活動をより活発にすることで、各種イベントの開催について再考する。 (2) 9月入学を検討する。それにより外国人入学者の数が増えることを期待したい。 (3) 外国人入学者の数を増やすべく、現行の日本語能力の基準を再考する。 (4) 履修証明プログラムの検討を開始する。
B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善 (1) 2025年度はルーブリックのアップデートを行う。 (2) 9月入学の実施や外国人入試の要件の見直しに伴い、必要な科目等の整備を行う。
海外研究者および大学院生との交流 ・語学を中心に学生が希望する授業をLUJで履修しやすくなるよう検討したい。 ・8月に本学で開催する英語教育研修会をはじめとするイベントを通じて、LUJとの交流を図りたい。
各センターとの連携:教職センター、BLEC、CLEC (1) 本研究科主催の第2回英語教育研修会を、教職センターやBLECと共に実施したい。 (2) 学部で一種免許を取得できなかった学部生は研究科に入学することで、在籍中に一種免許の取得が可能となる。その旨を教職センターとの連携して、広く学生に周知したい。 (3) 高い英語力や英語を教えた経験などをCLECやBLECで活かせるようなシステムを構築したい。

⑤2025年度 外国語学研究科

PLAN(計画) ➡2025年4月までに
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
収容定員の充足を目指す募集戦略 (1) 2025年度は広報・募集戦略委員会での議論や活動をより活発にすることで、各種イベントの開催について再考する。 (2) 9月入学を検討する。それにより外国人入学者の数が増えることを期待したい。 (3) 外国人入学者の数を増やすべく、現行の日本語能力の基準を再考する。 (4) 履修証明プログラムの検討を開始する。
B's Vision 2024に基づく学修成果・教育成果向上の改善 (1) 2025年度はルーブリックのアップデートを行う。 (2) 9月入学の実施や外国人入試の要件の見直しに伴い、必要な科目等の整備を行う。
海外研究者および大学院生との交流 ・語学を中心に学生が希望する授業をLUJで履修しやすくなるよう検討したい。 ・8月に本学で開催する英語教育研修会をはじめとするイベントを通じて、LUJとの交流を図りたい。
各センターとの連携:教職センター、BLEC、CLEC (1) 本研究科主催の第2回英語教育研修会を、教職センターやBLECと共に実施したい。 (2) 学部で一種免許を取得できなかった学部生は研究科に入学することで、在籍中に一種免許の取得が可能となる。その旨を教職センターとの連携して、広く学生に周知したい。 (3) 高い英語力や英語を教えた経験などをCLECやBLECで活かせるようなシステムを構築したい。